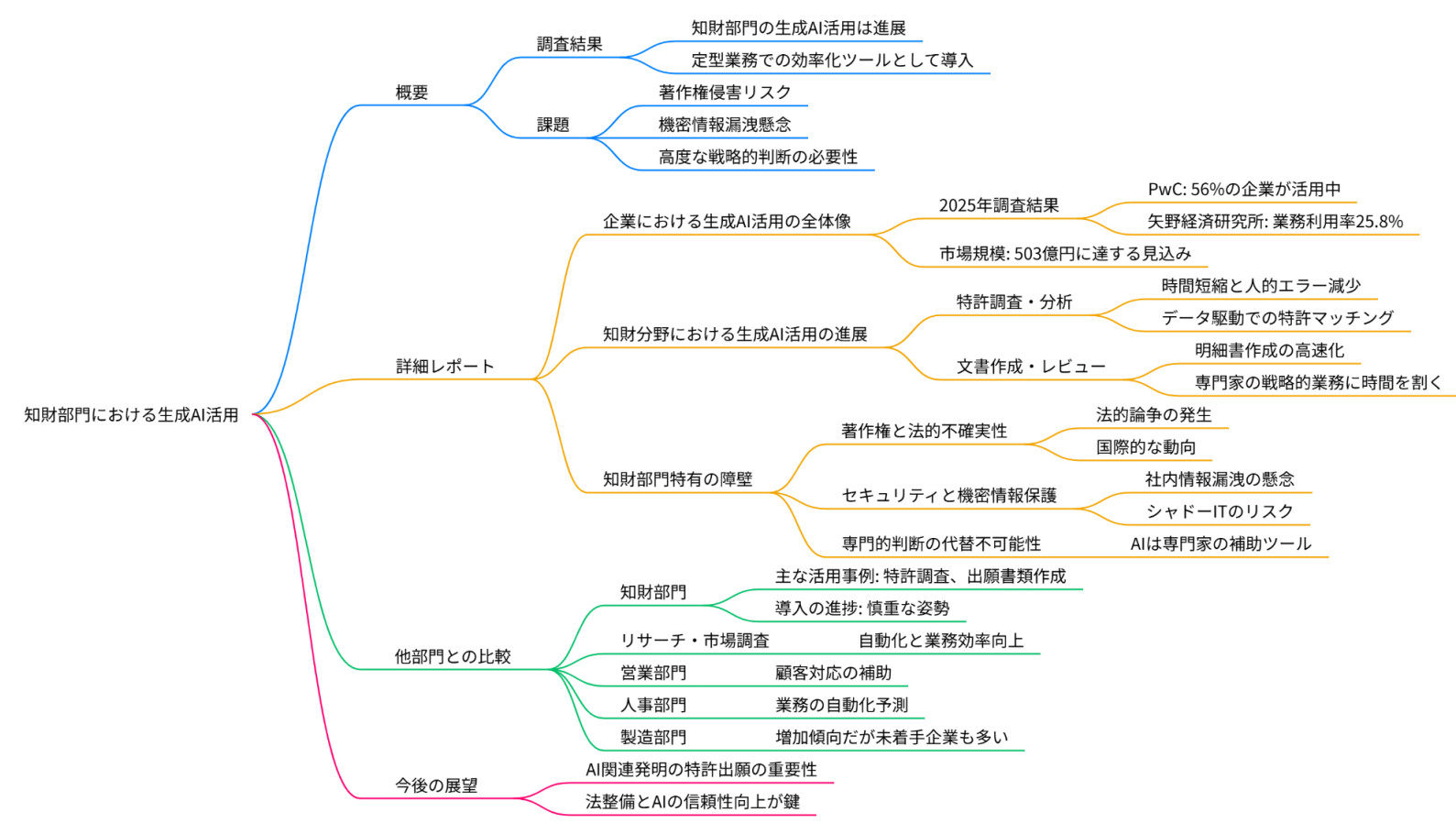


知財部門での生成 AI 活用は他の部門に比べて遅れているという状態が続いている

Felo AI



Overview

最新の調査結果によると、知財部門における生成 AI の活用は、特許調査や文書作成支援といった定型業務において効率化ツールとして導入が進展しています [59](#)。しかし、著作権侵害のリスク、機密情報の漏洩懸念、そして高度な戦略的判断の必要性といった知財分野特有の課題から、他の部門と比較して包括的な業務統合や大胆な活用には慎重な姿勢が続い

ています [3 11 39](#)。

これは単純な「遅れ」というよりも、分野の特性に起因する構造的な課題を反映したものです。営業や人事、マーケティング部門などが業務効率化を主目的に導入を加速させる一方、知財部門では AI を専門家の判断を補助するツールとして位置づけ、リスクを管理しながら段階的に活用する傾向が見られます [9 22](#)。法整備の動向や AI 技術の信頼性向上が、今後の本格的な活用に向けた鍵となっています [15 17](#)。

詳細レポート

1. 企業における生成 AI 活用の全体像と部門間の差異

2025 年時点の調査では、日本企業における生成 AI の導入状況について異なる見解が示されています。PwC の調査では 56% の企業が「社内で生成 AI を活用中」と回答している一方で [38](#)、矢野経済研究所の調査では業務利用率を 25.8% とするデータもあり [39](#)、導入の定義や範囲によって見方に幅があります。しかし、市場規模は 2025 年度に 503 億円に達する見込みで、成長を続けていることは間違いありません [14](#)。

活用が特に進んでいるのは、「データ分析・リサーチ」(19.4%)、「コーディング」(16.6%)、「コンテンツ制作」(9.2%) といった業務領域です [2](#)。また、営業部門では約 3 割が活用経験を持ち [22 35](#)、人事領域では 2030 年までに欧州で 27% の業務が自動化されるとの予測も出ています [4](#)。



これに対し、知財部門の活用は特定の業務に限定される傾向があります。これは、導入の障壁として多くの企業が挙げる「費用対効果の不明確さ」(48.8%)、「専門知識・スキル不足」(36.2%)、「セキュリティ・データ漏えいリスク」(32.5%)といった懸念が、機密性が高く専門的な判断を要する知財業務において、より深刻な課題となるためです [239](#)。

2. 知財分野における生成 AI 活用の進展

知財分野では、生成 AI が「効率化ツール」として着実に浸透し始めています。特に、膨大なデータ処理能力を活かした活用が進んでいます。

特許調査・分析の高度化 従来、専門家が数ヶ月を要していた特許調査は、AI の活用によって大幅に時間短縮され、人的エラーも減少しつつあります [5](#)。AI は世界中に存在する数千万件規模の特許データベースを横断的に分析し、技術トレンドの把握や競合他社のポートフォリオ解析を高速で行うことができます [57](#)。これにより、自社特許の潜在的なライセンス先をデータ駆動で特定するなど、より精度の高いマッチングが可能になっています [5](#)。日本特許庁も、登録特許のビジネスマッチング可能性を AI で分析するモデルを試作しており、官民で活用の動きが広がっています [5](#)。

文書作成・レビュー業務の効率化 弁理士の業務においても、AI は強力な支援ツールとなりつつあります [9](#)。特許出願のための明細書作成や、契約書のレビューといった定型的な文書作成業務の一部が、生成 AI によって高速化されています [9](#)。これにより、専門家はより創造的で戦略的な業務、例えばビジネスモデルを踏まえた特許戦略の立案や、クライアントへのアドバイザー業務に多くの時間を割くことが可能になります [913](#)。

3. 知財部門特有の障壁とリスク

他の部門に比べて知財部門の AI 導入が慎重に進められる背景には、この分野特有の深刻なリスクが存在します。

著作権と法的不確実性 生成 AI は、学習の過程でインターネット上から収集した膨大な既存コンテンツを利用します。この中には著作権で保護されたものが多数含まれており、その無断利用が著作権侵害にあたるとして、世界中で法的な論争が巻き起こっています [31115](#)。

- **国際的な動向:** EU では、欧州連合知的財産庁（EUIPO）が 2025 年 5 月に著作権の観点から生成 AI を分析する包括的な調査を発表し、法整備の必要性を訴えています [3](#)。米国著作権局も、AI 生成物の著作権保護の可否や学習データの利用に関するレポートを複数回にわたり公表しており、法的な枠組みの構築を急いでいます [1719](#)。中国では、人間の知的努力が明確な場合に限り AI 生成物の権利を認めるなど、国によって判断が分かれているのが現状です [11](#)。

このような法的な不確実性は、知的財産権そのものを扱う知財部門にとって、AI 導入をためらわせる最大の要因の一つとなっています。

セキュリティと機密情報保護 日本の企業の約 7 割が「社内情報の漏洩などのセキュリティリスクが拡大する」と懸念しており、この傾向は特に機密性の高い情報を扱う知財部門で顕著です [1 36](#)。特許出願前の発明内容や、企業の知財戦略といった最高レベルの機密情報を外部の AI サービスに入力することへの抵抗感は根強く、導入の大きな障壁となっています [39](#)。ルールが整備されないまま意欲的な従業員が個人で AI ツールを利用する「シャドーIT」は、企業全体のリスクを増大させる可能性も指摘されています [38](#)。

専門的判断の代替不可能性 AI は類似文献の抽出や文書の要約といったタスクは得意ですが、その結果を評価し、最終的な戦略に組み込むのは依然として人間の専門家の役割です [9](#)。例えば、ある特許が自社のビジネスモデルにおいてどのような価値を持つか、競合の動向を踏まえてどのような権利範囲を確保すべきか、といった高度な戦略的判断は、AI には任せられない領域です [9](#)。AI はあくまで専門家の能力を拡張するツールであり、代替するものではないという認識が一般的です [9](#)。

4. 他部門との比較と今後の展望

以下の表は、各部門における生成 AI の活用状況と主な課題を比較したものです。

部門	主な活用事例	導入の進捗と課題
知財部門	特許調査・分析、出願書類作成支援、契約書レビュー 5 9	定型業務で活用が進む一方、著作権・機密性リスクから包括的導入には慎重。専門家の戦略的判断は不可欠 3 9 11 。
リサーチ・市場調査	データ収集・分析の自動化、レポート・マインドマップ生成、深掘り分析 10	ChatGPT、Genspark 等の専門ツールが普及し、リアルタイムでの情報収集と分析が可能に。業務効率が飛躍的に向上 10 。
営業部門	顧客対応メール作成、議事録作成、提案資料の補助 1 22	約 3 割が活用経験あり 22 35 。主に社内向け業務から

部門	主な活用事例	導入の進捗と課題
		導入が進むが、顧客対応など外部向け活用も始まっている 1 。
人事部門	採用候補者のスクリーニング、研修コンテンツ作成、社内規定の問合せ対応 4	2030 年までに業務の 27%が自動化されると予測 4 。米国では研修実施率(45%)が高く、欧州(21%)と差が開いている 4 29 。
製造部門	設計・開発支援、メンテナンス予測、品質管理 16 37	全社的な取り組みは 20.1%と増加傾向だが、50%以上の企業は未着手 16 37 。現場レベルでの活用は 36.4%に留まる 37 。

このように比較すると、知財部門の活用は「遅れている」というより、「リスクを慎重に管理しながら、専門性を補完する形で導入が進んでいる」と評価するのが適切です。

今後は、AI 関連発明の特許出願が企業価値向上に大きく寄与するという認識が広がるにつれ、データ駆動型の知財戦略の重要性が増していきます [13](#)。著作権に関する法整備が進み、AI の出力精度や信頼性がさらに向上すれば、知財部門における AI の役割は、単なる効率化ツールから、専門家の戦略的意思決定を支える不可欠なパートナーへと進化していくでしょう。

- [1. 令和 6 年版 情報通信白書 | 企業向けアンケート – 総務省](#)
- [2. 生成 AI の業務活用 約 7 割がこの 1 年で増加と回答](#)
- [3. EUIPO releases study on generative artificial intelligence and ...](#)
- [4. 【2025 年最新】 AI が人事を激変させる！マッキンゼーの調査 ...](#)
- [5. 特許データ活用：AI マッチングによる知財ビジネス](#)
- [6. 【DX/AI 調査レポート】 DX の目的は 7 割弱が守りの「効率化 ...](#)
- [7. Patent Landscape Report – Generative Artificial Intelligence ...](#)
- [8. 【2025 年最新調査】 実は日本の生成 AI 導入率は高い！“PoC ...](#)
- [9. 弁理士は AI に代替される？特許調査から出願支援まで活用 ...](#)

10. [【2025 年 9 月最新】生成 AI でリサーチ（市場調査）が行えるっ ...](#)
11. [Generative AI: Navigating intellectual property](#)
12. [日本企業の生成 AI 利用率 25.8%の衝撃！海外に遅れる真の理由 ...](#)
13. [知財コンサルティング：戦略・業務改革・AI 経営対応](#)
14. [【2025 年 9 月最新】生成 AI 業界の激変を総まとめ－GPT－5 時代 ...](#)
15. [Investigating the impact of generative artificial intelligence on ...](#)
16. [【2025 年調査】製造業「生成 AI の利用実態」－ビジネス+IT](#)
17. [Copyright and Artificial Intelligence | U.S. Copyright Office](#)
18. [【生成 AI 活用のリアル】データが暴く「勝つ企業」と「停滞 ...](#)
19. [Generative Artificial Intelligence and Copyright Law](#)
20. [企業の生成 AI 活用「進んでいる」と感じる従業員は 14.4](#)
21. [Research Generative AI Usage Guidance](#)
22. [生成 AI の営業活用に関する実態調査を実施。営業現場で 3 割の ...](#)
23. [2025 年 9 月 18 日～9 月 22 日の生成 AI 最新ニュース・トレンド](#)
24. [過半数が生成 AI を「ほぼ毎日使用」。行政デジタル化の最新 ...](#)
25. [【2025 年最新】世代別 AI 活用の実態調査](#)
26. [生成 AI に関する実態調査 2025 春 5 カ国比較－PwC](#)
27. [【2025 年調査】製造業「生成 AI の利用実態」－ビジネス+IT](#)
28. [過半数が生成 AI を「ほぼ毎日使用」。行政デジタル化の最新 ...](#)
29. [【2025 年最新】AI が人事を激変させる！マッキンゼーの調査 ...](#)
30. [【2025 年最新調査】実は日本の生成 AI 導入率は高い！“PoC ...](#)
31. [企業の生成 AI 活用「進んでいる」と感じる従業員は 14.4](#)
32. [日本企業の生成 AI 利用率 25.8%の衝撃！海外に遅れる真の理由 ...](#)
33. [令和 6 年版 情報通信白書 | 企業向けアンケート－総務省](#)
34. [【生成 AI 活用のリアル】データが暴く「勝つ企業」と「停滞 ...](#)
35. [生成 AI の営業活用に関する実態調査を実施。営業現場で 3 割の ...](#)
36. [総務省 | 令和 6 年版 情報通信白書 | 企業向けアンケート](#)
37. [【2025 年調査】製造業「生成 AI の利用実態」、設計・調達部門に見えた...“ある課題” 連載：第 4 次産業革命のビジネス実務論 | Seizo Trend](#)
38. [【生成 AI 活用のリアル】データが暴く「勝つ企業」と「停滞する企業」 | Think IT（シンクイット）](#)
39. [日本企業の生成 AI 利用率 25.8%の衝撃！海外に遅れる真の理由とは－生成 AI と建設 DX](#)